

第8次教職員定数改善計画策定に向けての流れ

表1 公立義務教育書学校の教職員定数の改善経緯

区分	第1次 S34~S38	第2次 S39~S43	第3次 S44~S53	第4次 S49~S53	第5次 S55~H3	第6次 H5~H12	第7次 H13~H17
内容	学級編成及び教職員定数の標準の明定	45人学級の実施及び養護学校教職員の定数化等	4個学年以上複式学級の解消等	3個学年複式学級の解消及び教頭・学校栄養職員の定数化等	40人学級の実施等	指導方法改善のための定数配置等	少人数による授業、教頭・養護教諭の複数配置の拡充等
改善自然差引	34,000人 △18,000人 1,6000人	61,683人 △77,960人 △16,277人	28,532人 △11,801人 16,731人	24,378人 38,610人 62,988人	79,380人 △57,932人 21,448人	30,400人 △78,600人 △48,200人	26,900人 △26,900人 0人

- ※ 昭和54年度 15,979人(改善増3,254人・自然増 12,725人)
- ※ 平成4年度 △10,646人(改善増1,054人・自然減△11,700人)
- ※ 平成18年度 △1,000人(改善増 329人・自然減△ 1,000人・合理化減△329人)
- ※ 平成19年度 △ 900人(改善増 331人・自然減△ 900人・合理化減△331人)
- ※ 平成20年度 △ 300人(改善増1,119人・自然減△ 1,300人・合理化減△195人)
- ※ 平成21年度 △ 1,100人(改善増1,000人・自然減△ 1,900人・合理化減△200人)

表2 公立小中学校の学級編成の基準の改善経緯

区分	第1次 S34~S38	第2次 S39~S43	第3次 S44~S53	第4次 S49~S53	第5次 S55~H3	第6次 H5~H12	第7次 H13~H17
人数	50人	45人			40人		

この流れは、平成22年度から開始される「第8次教職員定数改善計画」の策定に向けた流れを示しています。この計画は、少人数学級の実施や複式学級の解消などを通じて、教職員の定数を削減し、教育の質を向上させることを目指しています。

文科省学級編制及び教職員定数に関するページURL
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hensei/1291348.htm

表3 平成21年度弾力的学級編成実施状況

	30人	31~34	35人	36~39	難対応	純計
小学1・2年	12県	3県	22道府県	2県	10道府県	41道府県
3・4年	—	1県	9県	1県	11道府県	20道府県
5・6年	—	1県	8県	2県	10道府県	20道府県
中学校	6県	4県	22道府県	1県	11道府県	38道府県
純計	13県	5県	32道府県	3県	12道府県	46道府県

表4 平成21年度弾力的学級編成近県の実施状況

徳島	小1・2 中	35人以下学級
愛媛	小1	35人以下学級
	小2~6 中	児童100人以上で必要性を考慮し35人学級 生徒200人以上で必要性を考慮し35人学級
高知	小1~4 中1~3	研究指定校において実施 小1・2と中1・3:30人学級 小3・4:35人学級

「教師人間論ゼミ」報告

平成22年2月より始まった「教師人間論ゼミ」。基本的に月1回第3日曜日に四国中央市新宮の若葉書院にて開催します。教師としての志を確認したり、子供たちへの話に使えるフレーズを見つけたりできる有意義な2時間です。是非お気軽にご出席下さい。過去2回の研修内容について簡単に紹介します。

第1回 「森信三先生に学ぶ教育」(平成22年2月21日)

「教育とは、人生の生き方のタネ蒔きなり」「教育とは、流水に文字を書くような儚い業である。だが、それを厳壁に刻むような真剣さで取り組まねばならぬ」森信三先生の言葉である。まさに教育の本質を述べられていると思う。また、森先生は真の教育者の絶対条件として次の3点挙げられている。

- 第1条件: 常に自己の人生の生き方の探求者でなければならない。
- 第2条件: 生徒に対する人間的愛情的持ち主でなければならない。
- 第3条件: 日本民族の追うべき文化的使命を心中深く憶念している人でなければならない。

私たち教員が日々の教育実践において、常に心にとめておかなければならない大切な理念である。森信三氏の詳細については、小野晋也氏著作「本物に学ぶ生き方」(致知出版社)等の関連書籍を参照いただきたい。

第2回 「石田梅岩に学ぶ教育理念」(平成22年3月21日)

「人なくば 辻立ちしても 教えんと」石田梅岩45歳の志である。石田梅岩は、江戸時代京都の町で、「心学」を説き広めた人である。幼少より商家へ奉公に行き、耳学問が中心であった石田氏は、45歳の時無料講座を開講する。疑問に対してとことん考え抜き、その教えを多くの人々に語りかけるのである。「自分は無学だから、話を聞きに来る人は少ないだろうが、町角に立ってでも、その志を述べる決意だ」との決意に教師としての原点を考えさせられた。また、倫理の大切さを説き、「三方良し」の考え方を貫いている。教師にも「律して正しい道を歩む」気概が不可欠であると感じた。

<文責 森 真佐純>

第3回教師人間論ゼミ:4月18日(日)13:30~

三〇日	第八回会長事務局長会議 (教育会館)
二七日	丸亀評議員会参加 (丸亀競技場)
二三日	異動発表
二二日	教師人間論ゼミ②(若葉書院)
二一日	教育関係団体連絡協議会② (教育会館)
一五日	教育関係団体連絡協議会① (宮崎県日之影町)
一〇日	講師部研修会⑧(教育会館)
六日	日之影町教育長表敬訪問
五日	公立学校共済組合香川支部 運営審議会(ルポール讃岐)
三日	鳴門支部論文発表会(民宿鳴門)
二日	公立学校互助会理事会 公立学校共済組合香川支部



平成二十二年度が
 始まりました。本年
 度もよろしくお願
 いします。

研修の機会を身近に! (人材バンク)

平成22年度の人材バンク登録者は、下表の通りである。登録いただいた先生方の、専門分野に関する豊富な経験と知識を、会員の求めに応じて情報提供・助言をお願いしている。優れた実践や貴重な経験を聞くことができるこの制度をぜひ利用していただきたい。

アドバイザーティーチャー(AT)登録者 平成22年4月1日現在

氏名	単組	勤務校	助言可能な領域分野
工藤 護	高松	高松市立紫雲中	国際理解教育 ・国際理解教育についての実践(中学校) ・日本人学校の実情や情報 ・日本語指導、英語等の指導
佐々木 広子	大川	さぬき市立津田小	ハンセン病問題学習 ・大島青松園への連絡方法 ・元ハンセン病患者さんとの交流方法 ・大島の施設案内
柏 徹哉	高松	高松市立木太小	中世・近世石造物 中世石造物・凝灰岩の生産地同定
井上 晃宏	丸亀	丸亀市立飯山北小	小学生の陸上指導
横山 由美子	丸亀	丸亀市立飯山北小	表現運動の指導 バスケットボールの指導 育てるカウンセリング
山本 兼司	丸亀	丸亀市立郡家小	・構成的グループエンカウンター ・ソーシャル・スキル教育 ・学級経営に活かす「Q-U」の活用
白川 恵介	大川	さぬき市立中央小	表現音楽 音楽科全般 ドラマ教育
安部 忠明	高松	高松市立古高松小	特別支援教育 ・LD、ADHD、高機能自閉症等の指導 ・WISC-III
雁木 君江	坂出	坂出市立東部小	子どもに読ませたい絵本・音読指導 ・お気に入りの絵本紹介 ・音読練習法

エキスパート・アドバイザー(EA)登録者 平成22年4月1日現在

氏名	所属	助言可能な領域分野
七條 正典	香川大学教育学部附属教育実践センター教授	道徳指導 生徒指導
宮前 義和	香川大学教育学部附属教育実践センター准教授	集団社会的スキル訓練について
阪根 健二	鳴門教育大学学校教育学部准教授	学校危機管理 生徒指導等
山下 隆章	香川大学教育学部准教授	人権同和教育 小学校教育全般
上原 禎弘	兵庫教育大学准教授	体育教育全般・社会科教育全般(語話動)

香教連役員選挙公示

香教連選挙管理委員会
 委員 榎田 守
 委員 田 守

立候補締切日

平成二十二年五月二十四日(月)

一斉選挙日

平成二十二年五月二十九日(土)

選挙投票地

第四十回定期大会会場
 (高松国際ホテル)

選出役員

委員長 若干名
 副委員長 一名
 事務局次長 二名
 事務局局長 一名

ついでに、二十一年度の役員基
 香教連規約第十九条に基
 香教連規約第二十一条に基
 香教連規約第二十一条に基
 香教連規約第二十一条に基